



チリの「奇跡」に学ぶ

佐渡市総合教育センター所長 宮川 安則

チリのサンホセ鉱山落盤事故で地下 700 m に閉じこめられた 33 人全員が、70 日ぶりに無事救出されました。まさに「奇跡」としか言いようのない感動的なドラマでした。

家族やチリ国民、そして国際社会の協力なくしてはあり得なかった救出劇ですが、成功の最大要因は、作業員達を統率したルイス・ウルスアさんのリーダーシップだと思います。

事故直後、地下にはわずかな食料しか残っており、ウルスアさんは冷静に 20 日分は確保しようと考えました。一人当たり、小さじ 2 杯分の缶詰のマグロと牛乳一口、ビスケット 1 枚を 1 日おきに分配するという規則を決定し、作業員に伝え、守らせました。また、新たな事故に備えるための見張り役や記録係、メンテナンス係など作業員一人一人に役割を与え、集団生活の規律を徹底させました。「絶対に希望を失うな。」と 33 人を励まし続けたウルスアさんは、救出される段階で、当然のように「33 番目」を志願したといえます。

組織のトップに立つ者の有りようや心構えを見事に演出し、実行して見せてくれました。

かつて私が下越教育事務所に勤めていた頃、生徒指導の危機管理について問われ、合い言葉「さ・し・す・せ・そ」の対応を紹介したことを思い出しました。

さ...最悪を想定し、し...慎重に、す...素早く、せ...誠意をもって、そ...組織的に、

です。チリの落盤事故のような世界を揺るがす大事件や事故はめったに起こるものではありませんが、大切な児童生徒を預かっている学校の責任者は、常にその心構えはもっていなければならないと改めて思った次第です。

学校評価について

指導主事 川上 治男

平成 15 年度より行ってきた中学校区単位の学校評価も 8 年目を迎え、今年から、市町村教育委員会が中心となり行っています。

昨年度は、特に、次のことについて工夫・改善をお願いしました。

保護者や地域の人々の声を活かすアンケートや学校関係者評価の実施
保護者や地域の人々と共に進める取組の位置付け

今年度は、これまでの取組に加えて、特に、次の点から工夫・改善に努めていただきたいと思っています。(教育かえつ21 より)

改善すべき課題を学校と関係する人々と共有することを大事にしながら、連携・協力する範囲をより拡大し、具体的な教育活動や運営活動を学校評価に位置付けること。

連携・協力して児童生徒の教育に当たることを考えたとき、地域の連携・協力が可能な対象として、次のようなものが考えられます。

- ・隣接学校等(幼・保・小・中・特別支援学校) ・学校支援地域本部
- ・保護者、地域住民 ・行政組織
- ・老人会 ・商工会、農林漁業組合
- ・NPO法人 等

他にも、学校によって、また、活動によって様々な対象が考えられます。それらと、「一緒になって行うこと」「役割分担して行うこと」を意識した連携・協力を推し進められるよう、具体的な教育活動や運営活動を学校評価に位置付け、その効果を検討しながら、よりよい教育活動を展開してください。

よく分かり、役に立つ研修を目指して

教育指導主事 半田 廣

15回。262名。75%。

何の数だかお分かりですか。当センターが、9月末までに実施した講座数と参加者延べ人数、そして、最後は受講して「4(満足)-4段階評価」と答えた方の割合です(ライブラリーと理科センターの講座は除く)。

センターでは皆さんの要望に応え、様々な分野の講座を実施してきました。講師陣も、大学教官、市教委指導主事、島内管理職、中学校の教科担任など多彩です。

受講者の講座に対する希望は多岐に渡り、そのすべてにはなかなか応えられませんが、講師の方々がご尽力くださり、このような高い満足率になっています。日々の激務の中、講師を快く引き受けてくださった島内の校長、教頭先生はじめ先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。

今年度は「授業の達人」の成果発表会を含めて残り四つ。まだ今年度受講していないという方は、ぜひ参加してみてください。

佐渡に広げよう『愛さつ・声かけ運動』

下越教育事務所(佐渡市担当)

指導主事 本間 健人

10月20日を中心に、市内全小中学校が「愛さつ・声かけ運動」に取り組みました。



13日には「佐渡地区心つながる地区の集い」で提案発表を行った南中学校生徒会の代表3名が、白杵教育長に取組の趣意書をもって訪れました。教育長から「佐渡の子どもたちのあいさつは素晴らしいと評判です。社会に出てあいさつができることが大切です。」と激励を受けました。

各学校が11地区に分かれ一斉に取り組みます。子どもたちのあいさつが全島に広がり、佐渡に住む人々の心がつながることを願っています。

「信頼」「安心」し合える 内からの学校づくり

管理主事 羽二生 裕

実りの秋、芸術の秋を迎えております。島内の小・中学校では「文化祭」を迎える時期となりました。

児童生徒・保護者・地域にとって、「信頼」「安心」できる学校づくりを、どの学校も推進しています。例えば、保護者参加型の学校行事を工夫したり、フリー参観日を設けたり、学校のHPを充実・更新したりして、学校からの情報を積極的に保護者・地域に発信し、「地域とともに歩む特色ある学校づくり」に取り組まれています。

さて、2学期も半ばを迎えました。各学校では、日々の授業改善とともに、学校評価や教員評価などを学校として確実に実施することが大切です。学校評価は全職員の目標とするベクトルを同じくして取り組むものです。

また、教員評価は自分の設定した目標に向かい、創意工夫して取り組むものです。学校として、個人としてPDCAサイクルを活用し、進捗状況を確実に評価し実践に努めてください。

学校として共通の目標達成を目指している学校評価では、節目節目の進捗状況を全職員で確認し共有することが大切です。一人一人の職員の力が結集し、協働して目標達成をした時の「感動」と「成就感」を全職員で味わい共有することが、地域に信頼される内からの学校づくりになります。

実りの秋です。教育活動においても実りの秋を迎えております。児童生徒、全職員が本校での取組を共に喜び合い、感動し、互いに信頼・安心し合える内からの学校づくりを、全職員で取り組まれることを期待しております。よろしくお願いたします。

佐渡管内において、9月から2件の速度超過違反(15 km/h と 20 km/h オーバー)がありました。速度超過違反が悲惨な事故を引き起こし、取り返しのつかない結果を招くことを一人一人が自覚し、**心と時間に余裕をもった運転と制限速度の遵守**に日頃から心掛ける必要があります。